

平成30年度第2回ジオパーク推進連絡協議会

日時：平成31年3月18日 9：30開始

記載なし：飯田、丸山

村長挨拶

再認定の年を迎えた。

もっとも小さなジオパークではあるが、認定時に受けた課題がある。

村の活性化にこれから寄与していくためにもこの再認定。大きな課題となる。30年度どう
いうことをやってきたか。など報告を受けて、中身のある充実した会議としたい。

議長選任：村長を議長としたい。

議事1：委員千人について

事務局説明願う。

.

地域おこし協力隊坂本が退職、別口雇用された関係で、委員を再任したい。

(異議なし)

お認め頂いた。焼酎無垢の蔵杜氏を委員として認める。

議事2：年度報告について

事務局説明願う。

.

平成30年度の取り組みについて説明させていただく。

硫黄島にある展示物博物館を修繕

カレンダー製作、およびアンケート。

教育研究事業

：補助事業。

実績については下記のとおり

ガイド検討：

写真のとおり実施。アンケートを収集、以下の回答。

今後のため、ガイド設定要綱を策定したい。議事2にて協議

県外教育交流授業

天草にて実施。全員女の子だったが無事実施。台風の影響もあったため、参加校は少なかったが、安全に参加できた。

防災啓発事業

鹿児島大学とデジタルサイネージを連携。整備していく。避難情報などもあわせて掲示する。黒島の画面を今作成中である。

運営。

会議等について。

ミシマ連絡協議会、JpGU、全国大会、九州ジオパーク連絡会、事務局長会議、JGN研修会、そのほか活動

視察対応、視察に行くなど。

白滝との遠隔ネットワーク授業（スカイプ利用）。新聞記事等にあげられた。

子供たちが喜んでいて。南紀熊野GPでも反響を聞いた。

HPについて

今製作中である。三島村の活動を圏外や関心のある人に見てもらいたいと考えている。

経過報告：（異議なし）

議事3：

・ガイド案を作成した。内容読み上げ。

年間を通した講座が無いこと、ガイド資料を作る必要があることから、レポート提出という形を盛り込んだ。

協議願う。ここの変更、緩和、中止があればと思う。

棚次：ガイド認定をもらったときにメリットにつながる構想はあるか。

事務局：認定者がジオパークに関わりやすくなると考えている。認定がガイド活動に対する弾みになってほしいと思う。何か商品がもらえるなどのメリットは今のところ検討できていない。

大岩根：専門職員だったときも、育成・認定をやろうとした。誰もやりたいという人がいなかった。

コメント [1]: ガイドについて

基準検討会で回らせてもらった。自分からやりたいって人はいなかった。やる側のメリットは薄い。具体的なメリットがあったほうがやりやすいと感じる。忙しい、敷居が高いなどのハードルを越えていくほどのメリットが提示できれば。協議会としてガイドが必要だとしても実際にガイドする人を見ていければと思う。

学校長：3島すべてを把握している必要があるか、敷居が高いと感じるが、年齢制限はあるか。

事務局：敷居が高いと思われるので、3島すべてについてを謳っていない。自身がもっとも興味のある話をレポートにしてほしいと考えている。年齢制限は無い。子供たちも参加できればと思っている。

教育長：有効期間について、括弧書きがいらぬ。1年更新という形でわかりやすい。希望者がいないのに1年で執行するというのがハードルが高いように感じる。ガイドにとって講座はきっと受けていただけと思っている。期間の定めが必要かどうか悩ましい。検討してほしい。

事務局：検討する。

小林先生：三島村の場合3島分かれている。他から見るとジオガイドというと、気界カルデラ、硫黄島を中心として考えてしまう。そこに住んでいる人はそれなりに話ができるだろうが、他の島はそれなりに勉強が必要。他のGP見ても、対象は1つ。歩けばわかるような程度。非常に難易度の高い資格かと思う。その辺をどう緩和するかが悩ましい。

事務局：同意する。他の島の事を話するのは難しいと考えている。他の地域は網羅的に話できるかもだが。地域に特化したほうが良いのではと思った。

大岩根：個人としては案内している中で、島ごとに違うので地元をもっと好きになるため、違いがわかっていたほうが良いと思う。認定基準に盛り込むかどうかは検討が必要だが。

事務局長：各位の得意な分野があるだろうから、それを生かせる形でやっていければと思う。広く拾い上げて、分担してガイドができればと思っている。全体的なことは検討会を実施して行く。ガイドを認定することによって活動が生まれるのではと思っている。ソノ活動についてはバックアップしたいと思っている。そんなにハードル高くしたいと思っていない。きっかけづくりとしても参加していただきたい。

棚次：小林先生の話を受けて。3島別の特徴がある。まったく他のジオパークとは別のガイドの組織、仕組み作りをできればと思う。メリットについては、ガイドに関わることが楽しいって思ってもらえることっていう考えもある。

前野：同意する。はじめは少しハードルを低くする。一人目二人目のガイドをうまく養成することが大切かと。3島すべてを網羅的にするのは難しいだろう。できることから。協議会でガイドの認定を行うようにしているが、随時行う予定としているか。再審査までにガイドを養成、認定者を出すのならスケジュール厳しい。検討していただければ。

事務局：再認定審査はあるが、再認定審査にあわせて、慌てて作ることを目的にしていない。随時認定については行っていく。

事務局長：年2回の認定ではスピード感にかけるため、認定審査部会等の設立を検討する。

大岩根：ガイドを認定することを目的ではないと考える。ガイドがいることで村はどうなつてほしいかというところが大切ではないか。内外に村を好きになってもらう人が増えることが大切で、ガイドを通じて村の良さがよりよくわかってもらえることを目標にしている。

副村長：ガイドの目的とかが話題になっている。ミシマGPのコンセプトが遊んで学んで稼いである。もちろんガイドも稼げるようにしていきたい。要綱9条に、記載の無いことについては会長が定めることにしている。協議会としては、この4年間来島者にどう案内をしているかと問われている。当座経験者、対応者に依頼し、認定を受けてもらいたいと思う。しかし研究・学習の分離が必要である。ガイドは学習が必須である。しかし一定のレベル以上になると「研究」の分野の知見が必要である。今後も先生方に協力いただき、知見を頂きたいと思っている。目的、やるべき事柄などしっかりしている。

村長：さまざまなジオパークにてガイドからの説明を受けている。定年後の活動や、子供たちの活動など。さまざまな形があるが、地元を誇りに思って、活動している。活動者は皆笑顔である。

事務局長：できましたら承認いただきたい。若干の修正箇所は必要かと思うが、おおむね同意で頂きたい。

副村長：さまざまな意見については、実施細則という形で反映させていただきたい。いかがか。

事務局長：基本的な要綱として認定し、その後細則、要領を定める。

村長：いつまでに細則などを定める予定か。

事務局長：細則については新年度早々に実施予定である。書面にて通知、意見を頂ければと思っている。

村長：要綱については認め、細則については早々にお知らせするとのコト。

(異議なし)

義務教育学校「ジオ科」について

教育長：説明申し上げる

村の学校の歴史的背景を考慮し、実施可能と判断した。総合的な学習の時間については「地球科(ジオ科)」を設定している。ICTの活用として、ジオパークのネットワークを生かした活動を考えている。

ジオパークカリキュラムとして複数検討している。ロイロという教育支援プログラムを活用している。

文言も「ジオ」についての側面からみなおしている。親しみやすいように近年の動向をあわせて行っている。「ジオラー」などの新しい文言も設定する。また、4月から時間割をそろえた。テレビ会議などの遠隔地での活動の際、時間の調整を行う必要があったが、今後はある程度緩和されている。義務教育学校では名前を変更することができる。長く使われていた文言を変更するのは気が引けるが、三島村と学校名が結びつかない事例が多くあるため、「三島硫黄島」「三島竹島」「三島片泊」などのように名前を変えることで現地と結び付けたいと思っている。ジオにさまざま結びつけ、今後の学校教育に生かして生きたい。

(異議なし)

議事4：平成31年度事業計画。

・事務局説明

議事5：そのほか

・合同会社むすび：このあとのSDGsのプログラムについて

(他なし)

村長：地域の人と一緒に盛上げていくのが大前提。